墨田区横川さくら保育園及び墨田区横川さくら保育園分園指定管理者応募事業者提案概要

項目		社会福祉法人希望福祉会	В
1 利用者サービスの向上	(1)利用者にとって平等に利用できる 環境が整えられているか	・子どもの性格や態度や容姿、保護者の所得や思想、生活状況等を理由に差別しない。 ・子どもが落ち着いて、穏やかに保育園生活が送れるような保育展開を目指し、職員教育を行う。 ・行事の際は、在園児の兄弟姉妹を連れてきてもよいような配慮を行い、保護者の負担を減らす。 ・障害児保育の実施(本園のみ)。重度の障害児の受け入れも積極的に行う。	・障害の有無、性別、年齢、国籍、出自に拘らず、あらゆる人を尊重し、平等に対応することを徹底する。・多様性を認め合う、やさしい心を育てる保育に注力する。・利用者が公共的に使われる場所や備品について現行ルールを尊重し、必要に応じて改善する。・障害児保育の実施
	(2)施設の設置目的を達成するための 事業計画となっているか	・墨田区の 0 歳~ 2 歳児の待機児童解消・一時保育、緊急一時保育の実施	・乳児期に適した保育内容を研究し、提供する。 ・保護者向けの情報発信を積極的に行う。 ・一時保育、緊急一時保育の実施
	(3) 利用者サービスの向上につながる独自の提案があり、実現が可能か	・2 時間の延長保育、一時延長保育の実施・一時保育の予約状況をホームページに公開し利用者の利便性を向上させる。 ・行事を可能な限り土曜開催し、保護者の就労に負担のないよう配慮する。・四半期ごとの旬の素材を生かした毎日違う献立を作成し、食材について話すなど食育に取り組む。・個々の子どもに配慮したきめ細かいアレルギー対応、可能な限りの代替食の実施・布団・毛布カバーを園で備え付けし、保護者のカバー製作の負担を軽減する。・同法人が運営する他園年長児との交流を行う。	・2時間の延長保育、一時延長保育の実施・登降園システム(ICT)を活用し、園だよりの配信、Web上での写真販売を行う。・グループ会社による体操教室の実施(月2~4回実施)・オリジナルカリキュラムによるリトミック教室の実施(月2~4回実施)・「油田プロジェクト」家庭からの油回収ステーションを設置し、地域との交流のきっかけとする。
	(4)利用者の要望・意見等を聴くため の手段と業務改善の取組があるか	・第三者評価の受審 ・行事ごとのモニタリングの実施(年間11回) ・転園時アンケートの実施(保護者全員) ・毎日の保護者との直接会話を重視 ・日々の保育の反省と次へつなげるためのPDCAサイクルの活用 ・代表者会議(週1回)、全体職員会議(月1回)を実施し、日々の保育の評価・反省や研修報告、クラス懇談会の報告の確認と共有を図る。	・第三者評価の受審 ・利用者アンケートの実施 ・イベント時のアンケートの実施 ・ご意見・ご摩望ポストの設置 ・セルフモニタリング ・業務改善フローの構築、PDCAマネジメントサイク ルの実行
	(5) 在園児の保護者や地域の子育て家庭に対する支援に取り組んでいるか	・子育て安心ステーション事業の実施と合わせて誕生会などのイベントを開催する。(年間12回、定員7家族)・子育て支援情報誌「えがお」の発行(年間10回、約10,000部発行し新聞折り込みで地域に配布ほか、区内各所に配置する。)・子ども110番への登録	・子育て安心ステーション事業の実施 ・地域の在宅子育て家庭に親子で来園する機会を設ける。 ・伝承行事や季節の行事に在園児と一緒に参加する取組 の実施
	(1)施設の設置目的を踏まえた管理・ 運営方針となっているか	・園児の安全を最優先とする施設の維持管理 ・保護者や地域の方々の視点からもきれいな維持管理	・安心安全な保育の提供 ・横川コミュニティ会館と連携し、より効果的な地域の 子育て支援拠点とする。
2	(2)施設の維持管理経費を節減するための積極的な取組があるか	・複数業者と見積りを取り、比較検討して委託業者を決定する。 ・一定金額以上の物品購入や園舎修繕、園舎維持管理の 委託については、その都度3社以上の見積りを取り、委 託業者を決定する。	・スケールメリットを活かし、修繕費、建物維持管理 費、保育材料費、食材費について、コスト削減を図る。
効率的・	(3)提案額は、事業計画を実現するための適正な額となっているか	【指定管理料】317,000,000円	【指定管理料】294,673,000円
効果的な施設の運営	(4) 区民の雇用や区内企業の活用を図 る取組があるか	・非常勤の雇用は、可能な限り区民を雇用する。 ・小破修繕はできる限り区内企業を活用する。 ・給食納入業者は、区立保育園時代の業者を引継ぎ、継続して委託する。 ・紙おむつ処分やごみ収集委託は区内企業と契約する。	・ハローワーク、シルバー人材を活用する。 ・区内企業の活用を検討する。
	(5) 地域特性に合った保育の運営が期待できるか	(本園) ・自治会との密接な関係の維持 ・敬老の日に町会の老人クラブの方との交流 ・町会内の敷地のゴミ拾い活動 ・町会の夏祭りで夜店を出展、地域住民との交流 (分園) ・町会との密接な関係の維持 ・敬老の日に老人会との交流 ・近隣の児童館との交流	・地域コミュニティ作り ・外国人の利用者に対するICT翻訳を活用した多言語 対応 ・横川コミュニティ会館と連携した合同イベント等の実 施

1

墨田区横川さくら保育園及び墨田区横川さくら保育園分園指定管理者応募事業者提案概要

項目		社会福祉法人希望福祉会	В
3 事業計画の遂行能力	(1)経営状況及び財政基盤は安定して いるか	【自己資本比率】	【自己資本比率】 令和2年度(4月~6月):42.3% 【流動比率】 令和2年度(4月~6月):127.8% 【固定比率】 令和2年度(4月~6月):113.4% 【固定長期適合率】 令和2年度(4月~6月):77.1% 上記の数値は令和2年4月から6月までの貸借対照表に基づく。 令和元年12月 会社設立 令和2年4月 吸収分割による認可保育所運営事業承継
	(2) 職員構成・職員数及び組織の管理・運営体制は適切か	【本園】 ・保育士数は園長を含め、23名配置する(うち常勤職員23名)。 (要求水準:23名以上(うち常勤職員20名以上))・看護師(常勤)を配置する。・事務員(常勤)を配置する。・用務員(非常勤)を配置する。 (分園】・保育士数は12名配置する(うち常勤職員11名)。(要求水準:11名以上(うち常勤職員10名以上)・看護師(非常勤)を配置する。・事務員(常勤)を配置する。・事務員(常勤)を配置する。・用務員(非常勤)を配置する。	・保育士数は園長を含め、28名配置する(うち常勤職
	(3) 管理責任者及び職員の資格や経験 は適切であり、職員のスキルアップに 向けた取組は十分か	・園長予定者の保育経験年数は33年である。 ・副園長予定者の保育経験年数は本園35年、分園29年である。 ・経験年数に応じた職員研修計画を定める。 ・園内研修の実施 ・園外研修への参加(新任研修・経験者研修)・常勤職員全員が上級救命講習を受講し、3年ごとの更新講習も受講する。	・園長予定者の保育経験年数は23年である。 ・副園長予定者の保育経験年数は本園16年、分園10年である。 ・経験年数に応じた職員研修計画を定める(非常勤職員を含む)。 ・園内研修の実施 ・園外研修への参加 ・保育士資格取得支援
	(4)個人情報保護の徹底及び積極的な 情報公開を行う計画となっているか	・厳重な個人情報の管理システムの導入 ・個人情報に関する徹底した職員教育の実施 ・横川さくら保育園のホームページを作成し公開する。	・本社と一部のグループ園を対象範囲としたISO27001のセキュリティレベルを共有し、同等の情報管理に努める。 ・個人情報管理については、入社時オリエンテーション、年次の研修に必須科目としてプログラムし、意識の向上に努める。 ・インスタグラムを利用した情報配信
	(5) 災害その他緊急時の危機管理体制 及び苦情処理体制は明確か	・墨田区の公立保育園危機管理マニュアルや墨田区危機管理基本計画を基本とした管理体制、訓練の実施・避難訓練(月1回)、防犯訓練(不審者対応年3回)、交通安全指導(年1回)、津波訓練(年2回)、大規模震災想定訓練(年1回・保護者引き渡し訓練)・町会、横川コミュニティ会館と連携した避難訓練の実施・救命訓練(AED使用、窒息時対応、蘇生法、応急処置)年3回・第三者委員を含めた苦情解決処理委員会の設置	・避難訓練・防災訓練(月1回以上)、保護者引き渡し 訓練(年1回) ・横川コミュニティ会館の職員と連携した合同の水害時 避難訓練 ・第三者委員を含めた苦情解決制度の設置
	(6) 同種事業に関する他の自治体での 実績の有無、本区での実績の有無	墨田区 ・認可保育所1園 ・平成19年~令和3年墨田区横川さくら保育園指定管理者 ・平成22年~令和3年墨田区横川さくら保育園分園指定管理者 他自治体 ・認可保育所1園(東京都)	他自治体 ・認可保育所20園(東京都6園、横浜市10園、川崎 市4園)